

2019年9月25日

## 超短期留学報告書

派遣者氏名：(学籍番号) 多ヶ谷 優治	
所属・研究室・学年： 工学院 システム制御系 学部2年	
派遣先大学： 国立台湾科技大学	
派遣期間： 2019年8月11日～2019年8月31日	

- この表紙を含まず、ページ数は2～4ページ、ファイルサイズは3MB以内としてください。
- 研究室や宿舍内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- 提出された報告書の2ページ目以降を工系のホームページに掲載いたします。また、別途、クロニクルへの執筆をお願いすることがあります。

東京工業大学 工系3学院

超短期留学報告書

派遣年 : 2019年

氏名 : 多ヶ谷 優治

所属 : システム制御系

派遣先 : 国立台湾科技大学

## 2 TOP Capstone Design Project Course (2019/8/11~2019/8/31)

### <学んだこと>

この度2 TOP CDPCに参加しまして多くのことを学びました。また、今回学べたことは日本では学べなかったことなのでとてもいい経験となりました。このようなプログラムを開催して下さった方々に感謝します。また、今後もCDPCの開催を継続して長期休暇ならではの、いつもと違った視点での学びの場を後輩にも提供していただけたらありがたいです。

学んだことの一つ目は台湾科技大学生の英語力の高さです。僕ら日本人グループは英語の講義についていくのが遅ればせながらやっと理解する程度でしたが、台湾科技大生はその場でふむふむと理解できている様子でその場で不明点を教授に質問していました。グローバル化する現代で世界共通語である英語が拙いということは世界から出遅れてしまうことを意味するんだと恐怖しました。日本入学受験様式ではリーディングと少しのリスニングが主で、読む聞くというだけの受動的な英語スキルだけにフォーカスされている教育を受けている自分たち日本人はこのままでは世界から出遅れたままだなと思いました。帰国後、昨日急いでグローバル理工人の所属申請をしました。これからの在学期間で読む聞くはもちろんのこと話す書くにももっと焦点を当てて英語のスキルを鍛えようと思いました。



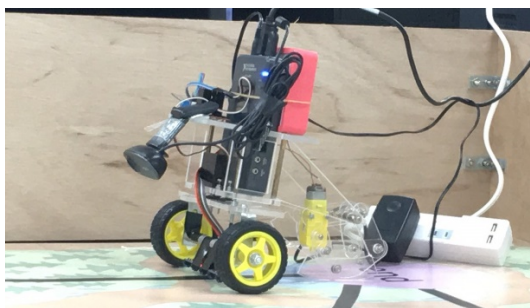
仲良くなった台湾科技大生のチャン君

二つ目は、台湾科技大の教育設備です。今まで大学の設備は東工大だけしか知りませんでした。台湾科技大ではCDPC参加者の台湾科技大生曰くもっと日々の実習でお金がかかりそうな制作活動をしているそうです。実際、台湾科技大のPCにあるソフトは豊富ですべて最新版でした。街中の建築様式やインフラを見ても日本の方が断然上ですが大学教育に対する考え方が日本より熱いものなのかなと思いました。台湾科技大生の英語力のこともそうですが、海外の大学は日本の大学へ進学したらアガリ的な考えとは違って、もっとアクティブに学ぼうという姿勢なのかなと思いました。僕はしのぎを削るようなスリルのある状況が好きなのでより一層海外の大学に対する興味が深まりました。帰国後も

TOEIC からまず勉強して英語力を高めて東工大の派遣交換留学プログラムを利用しようと英語学習に取り組んでいます。CDPC は今後のいいモチベーションづくりになりました。



言葉の壁を乗り越えて何とか2位！



本プログラムで製作したカート付二足歩行ロボット

三つ目は、台湾人はみな優しくかったことです。現在日中韓の国際関係があまりよくなくその上、歴史的な背景があるので日本人に対する風当たりはあまりいいものではないのではないかという不安が出国前にありましたが、いざ入国してみると CDPC 参加者のみんなはとても親切で日本人に興味津々でした。毎日講義終了後、終電がなくなるギリギリまで観光に連れて行ってくれました。一回だけ終電飛ぶまで観光してタクシーで帰りました。理由を聞いてみると、台湾人にとっての日本は僕ら日本人にとってのニューヨークのようなところでぜひとも一回は行ってみたい憧れの国だそうです。そのようなイメージなので「台湾はこうだけど日本はどうなんだ」というように日本のことについてすごく聞かれました。台北・西安（日本でいう渋谷のようなアメリカンファッションの街）に訪れたときは台湾人の若者が日本のアニメや芸能人について話していたり、覚えてたの日本語を会話の中で使っていました。日中韓問題については台湾科技大生が「僕らは中華民国の人間だから、中華人民共和国とは関係ない。」と割り切っていて、ちょうど滞在中に激化していた逃亡犯条例に関する香港デモについても中立の立場で話していました。彼らのことを Chinese というと Taiwanese だと訂正してくるくらい独自の国民性が台湾にはありました。また、街中では英語はなかなか通じないので日本人であることを英語で伝えると、あーごめんね！といった感じで飲食店では日本語のメニューを出してくれて、食べ終わってから「好吃（おいしい）」なんて伝えるとすごい笑顔で手を振ってくれました。ほかには

台湾科技大生協のおじさんが缶コーヒーをくれたり、宿のおじさんが毎日タバコをくれたり、勝手に食事を大盛りサービスしてくれたり、「I'm Japanese」をいうのが楽しくってしょうがなかったです。あとは、日本のようにつぶれるまで飲む習慣がないらしく街中で夜、人に迷惑をかける酔っ払いがいなかったり、暴走行為をする走り屋はいなく、先頭をただぶちぎるだけのシグナルレースが逆に熱かったです。他人に迷惑かけずに個々生きるのが日本人よりいいなと思いました。CDPCを通して、生まれて初めての国際理解ができたのではないかなと思いました。今回できた台湾人の友人たちとは帰国してからも連絡を取っています。今後、お互いの活躍を報告しあえるような関係にできるようにこれからも日々精進します。

最後になりますが、この度は企画のセッティングから帰国まで大変お世話になりました。今後もお世話になる機会があると思いますがご指南の程、よろしくお願いいたします。



台湾北部・淡水で見た夕日